

- 外濠と神楽坂のまちづくり -

保坂 公人
神楽坂地区まちづくりの会



江戸城の外濠は

江戸城の外濠のうちで神田川と接していたのが飯田濠です。ここには神楽河岸という揚場がありました。この神楽河岸は戦後も長い間利用されてきました。そして、今でもここに揚場町という地名が残されています。飯田濠の上流は牛込濠でした。この濠の境には牛込御門があって、ここに堰が作られていました。昔は舟がここまで登って来ていたのです。堰があるので舟はここから上には遡れませんが、舟で来た荷はここで荷揚げされました。神楽河岸は山の手に物資を供給する基地だったわけです。堰は今も残されていますが、飯田濠はすでに埋め立てられてしまいました。(JR飯田橋駅ホム前の高層住宅と事務棟が飯田濠跡に建っています。)

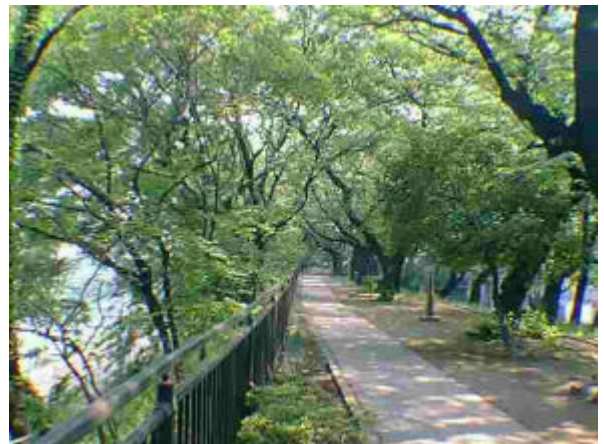
江戸時代の神楽坂は急勾配で荷を積んだ大八車はとも上れませんでした。そこで、もっぱら神楽坂の一本北の「軽子坂」が荷物の運搬のルートになっていました。

神楽坂の一番高い所から外濠までの高低差は20mほどもあります。今では神楽坂の途中から外濠を直接見下ろすことはできませんが、ふとした建物の切れ目からチラと見える外濠の水面は、いまでも美しく輝いています。

神楽坂は

粋な町神楽坂は「芸者さん」という反応がすぐに返ってくる程、色町のイメージが強いのですが、繁華街なのに昔から代々、人々が住み続けているまちなのです。最近この町はペンシルビルが多くなったので、昔のイメージは表通りからは感じられなくなりました。しかし、チョット路地に入ると、まだまだ静かな佇まいが残っています。飲み屋さんも多いですが、事務所や学校もたくさんありますので、サラリマンや学生も多くて夜遅くまでにぎわっています。

神楽坂は花街や繁華街のイメージで良く知られていますが、昔からは江戸城の外濠との関わりも深いのです。



キ-ワ-ド：神楽坂・神田川・江戸城外濠・下水道・湧水
連絡先：神楽坂地区まちづくりの会 会長 坂本二郎

新宿区神楽坂 3-2 Tel.03-3269-2639

外濠の東側はJR中央線が走っています。そしてすぐ10m以上の急な崖で、外濠を真下に見下ろす崖上は外濠公園となっています。桜を中心に松や榎の林ですので、春のお花見の頃は花見客でにぎわいます。でも、ふだんは大変静かな公園です。地元に住む人達がジョギングや散歩を楽しんでいます。近所に大きな病院がいくつもありますから、入院患者さんが散歩している姿もよく見かけます。

外濠の西側は外堀通りで4車線の道路です。車道と外濠の間は斜面緑地とあまり広くない歩道です。水面からの高さは東側と比べるとずっと低くて、2～5mくらいです。緑地はあるものの、歩道全体を覆う程の広さはないので日射しや車の騒音を防げません。そんな関係か、歩行者はあまり多くないようです。神楽坂から四谷までは堰上げされた外濠と土手の公園が続きます。神楽坂に住んでいる人たちの日常生活の中には自然に外濠がありますが、外濠公園とこの景観は地元の人のものでなく、東京都民の共有の財産です。

まちづくりと外濠

JR総武線の飯田橋西口に降りたことがありますか？ホ-ムから長い通路を歩いて改札を出ると、目の前に水面が広がります。春には外濠の兩岸の桜の並木が出迎えてくれます。飯田橋は神楽坂への入口駅ですが、電車から階段を全く使わないで外に出られる都内では珍しい駅なのです。ただ、神楽坂は大変急な坂なので、けしてバリアフリ-とは言えません。しかし、お年寄りもたくさん生活しています。「遠回りでも緩い坂を拾って歩けばそんなに大変ではないよ。」と歩くお年寄りが多いです。



神楽坂まちづくりの会ではこの景観や水質をどのように守って行けば良いかを考えています。あまり活発な活動にはなっていませんが、四季の景観をホ-ムペ-ジで公開したり、折りにふれて、散策の会などを催してPRに努めています。外濠の水質と水量を守ることも重要なことだと思いますが、これは私たちだけの力では何ともできません。そこで、この「水郷水都全国会議」の場所をお借りして外濠が置かれている現状をお知らせしたいと思います。

外濠が置かれている現状

さて、ご存じのように東京の都心部の下水道は合流式（汚水と雨水を一緒に集めて下水処理場に送っているシステム）です。都区部に少し強い雨が降ると、神田川などの河川はすぐ増水して濁流が流れます。上流に地下調整池がたくさんできたので、最近では河川の氾濫は少なくなりました。そして、濁流も雨が止めばすぐに消えてしまい、あとは綺麗な水が戻ってきます。見た目には東京の河川はとても綺麗になっていますので、水辺に親しめる河川改修が話題になっています。でも、この濁流は下水道から溢れ出した汚水です。河川に溢れた汚水は雨が止むと全部流れて行ってしましますが、外濠に溢れ出した下水は外濠の中に留まってしま





います。

毎年、梅雨時になると、外濠は緑茶のような色に変わります。アオコが大発生するのです。1年ほど前に、NTTがソラパネルの宇宙船のような舟を浮かべて、水質浄化の実験をしていたこともありますが目に見える効果はありませんでした。

外濠には下水流入口が幾つかありますが、大きなものは2つです。一つはJR市ヶ谷駅のホムの新宿より立つとよく見える市ヶ谷濠の大きな排水孔です。調べてはいませんが、新宿に向かう古い谷を埋めた跡でしょう。もう一つは見附

濠です。やはりJR市ヶ谷駅の飯田橋側のホムからよく見えます。釣り堀の少し下流です。ここは下水の流れ込む位置が水面より高いので、強い雨が降ると滝のように流れ込んでいる様子が電車の窓からよく見えます。雨が止んだ後の水面は溢れ出た汚物と濠底に貯まって腐敗した汚物が浮き上がって来てとても汚いのです。

毎日観察していると少し判ってきました。市ヶ谷駅前の市ヶ谷濠と新見附濠は雨が降らないと水位が下がって水は流れ出しません。牛込濠は雨が降らなくても越流が止まることは少ないようです。つまり、上の2つの濠は下水が入らないと、自分では水位を維持できないが、下の牛込濠は湧水があって何とか自前で水位を維持できるかも知れません。

外濠の水質改善案

外濠が置かれている環境がお判りになったと思います。水面が広く、あまり異臭もないので見落とされていますが、外濠は巨大な污水調整池兼污水处理施設として使われているのです。都心にこんな過酷な運命を背負わされている大きな池があるのです。

外濠の周辺には丸の内線、東西線、南北線、有楽町線、都営新宿線、大江戸線（工事中）などの地下鉄が網の目のように巡らされています。これらの施設が外濠の湧水を奪ってしまっている可能性は高いはずで

**下水の流入を止めて、地下鉄の湧水を外濠に返して貰えば外濠の水は蘇ります。
澄んだ水が帰ってくれば魚や水鳥だけでなく人間も水辺に近づけるようになります。**

